第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

オオダイガハラサンショウウオ

Hynobius boulengeri (Thompson, 1912)

松井正文（京都大学）・西川完途（京都大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：松井正文・西川完途，2026．オオダイガハラサンショウウオ．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 511-515．

Citation: Matsui, M. and K. Nishikawa, 2026. *Hynobius boulengeri* (Thompson, 1912). *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 511-515.

有尾目 Caudata　サンショウウオ科 Hynobiidae　　日本固有

オオダイガハラサンショウウオ

***Hynobius boulengeri* (Thompson, 1912)**

カテゴリー判定結果　絶滅危惧Ⅱ類（VU）　B2ab				
基準 A:　－	基準 B:　VU	基準 C:　－	基準 D:　－	基準 E:　－

B2．生息地面積が 2000 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。
a) 生息地が過度に分断されているか、10 以下の地点に限定されている。
【過度に分断】
分布は河川、平地によって細かく山塊ごとに分断されており、小集団は絶滅リスクが高い状態にある。
【地点数】10 地点以下
b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。
【判断理由】
生息域の各所で森林伐採、林道建設が進んでいる。30 年以上前に、観光客の残すごみによって、幼生の生息場所である渓流が汚染され、個体数が減少している例が指摘されている。

評価分科会：　爬虫類・両生類分科会

概要

本種では林道建設や観光地化によって、生息環境の悪化が起こっている。

基礎情報

【形態】

体は非常に大型、頑丈で、全長は 136～194 mm。尾は長く、頭胴長の 80～90%になる。鋤骨歯列はU字型に近い深いV字型で、体側には通常 13 本の肋条をもつ。前後肢を体側に沿って折り返すと、0.5～3 肋鰭分の隙間を生じる。後肢は 5 趾性。尾は後半部で著しく側偏し、丈が高い。背面は一様な石板色で、斑紋や斑点をもたない。腹面は背面より淡色。きわめて大型で、ほとんど斑紋をもたず、尾の側偏の程度が著しいことでイシヅチサンショウウオを除く他のどの種とも区別される。イシヅチサンショウウオは鋤骨歯列が本種より短い。幼生はブチサンショウウオの幼生に似ているがより大型で、頭部はより角張る傾向がある。ハコネサンショウウオの幼生と違い、四肢後面に皮膚のひだをもたず、背鰭は胴の中央から始まり、四肢端の黒色の爪も強くは発達しない。

【生活史】

繁殖は年 1 回、本州の低地では 2 月下旬から、高地では 5 月上旬～下旬である。繁殖場所は山地にある川幅の中程度の渓流で、とくに源流近くが利用され、水中にある大きな岩石・倒木の下など、日光の差し込まない場所に産卵がなされる。1 メスの産卵数は 19～63 個程度。幼生は 5 月頃から水中で成長・発育し、一部は年内、多くは越冬して翌年の 9 月頃までに変態するが、翌々年に変態するものもいる。幼生は水生昆虫、ミミズ類、ヨコエビ類、落下するクモ類、陸生昆虫類を食べ、よく共食いもする。変態後は渓流近くや斜面で、積み重なった岩石の間、林床の落葉・倒木の下などで生活し、クモ類、昆虫類、ミミズ類、とくにシーボルトミミズを餌とする。土中や石下、ときに渓流中で越冬するが、12 月、1 月にも活動することがある。繁殖個体の平均年齢、成熟時期、野外での寿命は不明である。

【生息環境】

夏緑広葉樹林、針広混交林に生息する。既知の分布地点は標高 200～1,750 m の間にあり、ほとんどは 500 m 以上である。

生息環境区分：	【陸域_中標高地 低標高地】森林，河川源流域，河川上流域
国土地域区分：	(1) 奥山自然地域

【分布域】

本州の近畿地方南部を東西に走る紀の川、吉野川の一線以南（三重県、奈良県、和歌山県の 3 県)。過去に報告のある三重県北部の分布地点は他とかけ離れており、誤りの可能性が高い。本種と同様に流水産卵性のマホロバサンショウウオ、ハコネサンショウウオ、ホムラハコネサンショウウオと混生する場合がある。幼生段階で他種と生態的にすみ分けており、三重県下ではマホロバサンショウウオよりも上流に生息する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

生息地は河川、平地によって細かく分断される。分布面積、分布域縮小率の詳細は資料が少なく推定不能。

【生息地の現況】

生息域の各所で森林伐採、林道建設が進んでいる。30 年以上前に、観光客の残すごみによって、幼生の生息場所である渓流が汚染され、個体数が減少している例が指摘されている。近年は繁殖場所である河川源流域で土壌の流出が見られ、幼生が激減した地域が知られている。

【個体数の現況】

個体数は不明だが確実に減少している。

存続を脅かす要因

山岳道路、砂防堰堤の建設、森林伐採と、それにともなう土砂の渓流への流入や、観光地化による水質汚濁のような生息環境の消失が種の存続を脅かしている。愛好者等による乱獲のおそれがある。

要因の区分：	（過去）	森林伐採，河川開発，土地造成，交通インフラ建設，ダム・河川工作物建設，交通事故，水質汚濁，捕獲・狩猟/園芸採取
	（現在）	森林伐採，河川開発，土地造成，交通インフラ建設，ダム・河川工作物建設，水質汚濁，捕獲・狩猟/園芸採取

特記事項

分布する各県の指定天然記念物に指定されている（三重県、奈良県、和歌山県）。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	オオダイガハラサンショウウオ	*Hynobius boulengeri*	VU
第４次 2019：	オオダイガハラサンショウウオ	*Hynobius boulengeri*	VU
第４次 2018：	オオダイガハラサンショウウオ	*Hynobius boulengeri*	VU
第４次 2017：	オオダイガハラサンショウウオ	*Hynobius boulengeri*	VU
第４次 2015：	オオダイガハラサンショウウオ	*Hynobius boulengeri*	VU
第４次：	オオダイガハラサンショウウオ	*Hynobius boulengeri*	VU
第３次：	オオダイガハラサンショウウオ	*Hynobius boulengeri*	VU
第２次：	本州・九州地域のオオダイガハラサンショウウオ	*Hynobius boulengeri*	LP
第１次：	本州・九州地域のオオダイガハラサンショウウオ個体群	*Hynobius boulengeri*	LP

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【三重県】絶滅危惧Ⅱ類(VU)，【奈良県】絶滅危惧種，【和歌山県】絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)，【徳島県】準絶滅危惧(NT)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

特定第二種国内希少野生動植物種

参考文献

- 松井正文，1995．オオダイガハラサンショウウオ．日本の希少な野生水生生物に関する基礎資料（Ⅱ），pp. 410‐415，日本水産資源保護協会，東京．
- 松井正文，2010．オオダイガハラサンショウウオ．改訂レッドリスト付属説明資料 爬虫類・両生類，pp. 12，環境省自然環境局野生生物課，東京．
- 松井正文，2000．本州・九州地域のオオダイガハラサンショウウオ．環境庁自然保護局野生生物課（編），改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物－レッドデータブック－(爬虫類・両生類)．pp. 110‐111，財団法人自然環境研究センター，東京．
- 松井正文・西川完途，2021．オオダイガハラサンショウウオ．日本爬虫両棲類学会（編），新日本両生爬虫類図鑑，pp .11，サンライズ出版，彦根．
- Nishikawa, K., M. Matsui and S. Tanabe, 2005. Biochemical phylogenetics and historical biogeography of *Hynobius boulengeri* and *H. stejnegeri* (Amphibia, Urodela) from the Kyushu region, Japan. Herpetologica, 61(1): 54–62.
- Nishikawa, K., M. Matsui, S. Tanabe and S. Sato, 2001. Geographic enzyme variation in a Japanese salamander, *Hynobius boulengeri* Thompson (Amphibia, Caudata). Herpetologica, 57(3): 281–294.
- Nishikawa, K., M. Matsui, S. Tanabe and S. Sato, 2007. Morphological and allozymic variation in *Hynobius boulengeri* and *H. stejnegeri* (Amphibia: Urodela: Hynobiidae). Zool. Sci., 24(7): 752–766.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Hynobius boulengeri has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Hynobius boulengeri* is listed as VU under criteria B2ab.

B2. Area of occupancy estimated to be less than 2,000 km², and estimate indicating at least two of a-c:

a. Severely fragmented or known to exist at ten or fewer locations.

b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:

(i) extent of occurrence

(ii) area of occupancy

(iii) area, extent and/or quality of habitat (iv) number of locations or subpopulations (v) number of mature individuals	
Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Mid-altitude area, Low-altitude area】Forest, River headwater, Upper river basin
Threat types:	Logging and wood harvesting, River development, Land development, Transportation infrastructure construction, Dam/River structures construction, Water pollution, Hunting and collecting animals/Gathering plants
Law designation status for conservation	Specified class II nationally rare species of wild fauna and flora.



執筆者:	松井正文（京都大学）・西川完途（京都大学）
Author:	Masafumi Matsui and Kanto Nishikawa

公表年月：2026 年 3 月